

緩和医療（ホスピス）について

乳がんは一旦、遠隔転移を起こしますと、ほとんどの場合で治癒は望めません。現時点での遠隔転移を有するような進行乳がんの治療の目標は「治療の副作用による生活の質の低下をあまり起こさず、乳がんの増大、進行を抑え、生存を延長し、乳がんによる症状を緩和する」ことです。一般的には化学療法、内分泌療法、放射線治療などの乳がんの増大、進行を抑える治療以外の、乳がんによる症状を緩和する治療、ケアを意味します。たとえば、痛みに対する鎮痛剤の投与、呼吸苦に対する酸素の投与などがそれに当たります。多種多様な鎮痛剤に代表されるようにこれらは着実に進歩しています。高度の緩和医療に関する専門知識、経験をもった医師の治療により、より効率的に症状を緩和できることもあります。そのような専門家が担当する科として「緩和ケア科」「ホスピス科」「ペインクリニック」などがあります。

乳がんの遠隔転移による症状が出始めたとき、①乳がんの増大、進行を抑え生存の延長を図る治療と②乳がんによる症状を緩和する治療を同時並行に行います。①と②の治療を同じ科が担当した方が良いか、別々の科が担当した方が良いか、あるいは、別々の病院によって行った方が良いか、などは患者さんの症状、がんの進行の状況を診ながら、医師が判断し、相談させていただきます。別々の科、あるいは別々の病院での治療に戸惑いを感じる患者さんもいらっしゃるでしょうが、「より効率的に症状を緩和する」ために「より良い専門家」が担当するためです。

患者さんの状態（年齢、他の病気など）、乳がんの進行状況（薬が効く可能性など）、患者さんの副作用への考え方（副作用の危険性をどの程度受け入れられるか、など）、などを診察、面談しながら判断し、相談させていただきます。

緩和医療専門施設

京都府

日本バプテスト病院（ホームページアドレス：www.jbh.or.jp）

薬師山病院（ホームページアドレス：www.yakushiya.or.jp）

滋賀県

滋賀県立成人病センター（ホームページアドレス：www.pref.shiga.jp/e/seijin）

大阪府

高槻赤十字病院（ホームページアドレス：www.takatsuki.jrc.or.jp）